

教育振興運動メールマガジン『冬休み特大号』

「みんなで教振！」通信 ★家庭学習と読書推進のポイント教えます★

☆☆☆ このメルマガの内容とは？ ☆☆☆

このメールマガジンは、教育振興運動全県共通課題（「家庭学習の充実」と「読書活動の推進」）の推進にあたり、実践事例の紹介や意見交流を行うために、各実践区事務局、県内小中学校、市町村教育委員会、県内指導主事・社会教育主事、そのほか関係者の方々に送信しているものです。

< 目 次 >

- 1 【事例紹介 11】 「赤荻地区実践区（一関市）」 《家庭学習》
「舞川地区実践区・舞川中 PTA（一関市）」 《読書推進》
 - 2 【家庭学習】 「教育振興運動の原点」とは
 - 3 【読書推進】 得々！ブックトーク（第2回）
 - 4 【教振は今】 教ちゃん、振ちゃん見聞録
 - 5 【みんなの声】 ペっこ言い隊
 - 6 【編集後記】 あつしのひとりごと
-

- 1 【事例紹介 11】 「赤荻地区実践区（一関市）」 《家庭学習》
「舞川地区実践区・舞川中 PTA（一関市）」 《読書推進》

今回は、一関地区から2つの事例を紹介します。

(1) 赤荻小学校では、「学力向上対策5項目」のひとつに家庭学習を位置づけています。地区ごとの懇談会では家庭学習を含めた親子のふれあいという形で意見交換を行いました。

事例⇒ http://www.manabi.pref.iwate.jp/kyoushin/jirei_akoogi.pdf

(2) 舞川地区実践区は、5月に開催された「市町村教育振興運動担当者研修会」において、事例発表をおこなった実践区です。公民館が中心となって、児童の実態調査を行い、「チーム教振」派遣事業を活用しながら3年のスパンでの実践⇒改善により、読書推進に取り組んでいます。

事例⇒ http://www.manabi.pref.iwate.jp/kyoushin/jirei_maikawa.pdf

- 2 【家庭学習】 「教育振興運動の原点」とは

教育振興運動は、平成 17 年度から組織や地域の課題を見直し、実践とその評価・改善に取り組む「10 か年プロジェクト」を推進しています。これは、ひとことと言うと、「スタートから 40 年を迎え、その理念の理解が薄れてきた今、

教育振興運動の原点に立ち返ろう」というものです。

では、「教育振興運動の原点」とは何でしょうか。

教育振興運動 30 周年記念大会における 工藤 巖 元岩手県知事の特別講話から、その答えを紐解いていきたいと思います。

教育振興運動という言葉は、岩手県が昭和 39 年 4 月に策定した「教育基本計画」の中に初めて登場します。その趣旨は、「子どもたちも、父母も、学校も、地域社会も、行政も、他人の責任にしないで、自分の責任だと考えて、しかも力を合わせて取り組むのでなければ、教育の発展はない」というものでした。

⇒ 他人の責任にしないで、力を合わせなければ発展はない・・・45 年前も今も変わりません。(学校・家庭・地域の連携が叫ばれる 45 年前の考えです)

「教育基本計画」という計画を策定したのは、当時全国で岩手県だけであり、また教育の全県運動を起こしたのも岩手県だけでした。昭和 30 年代の岩手県は、全国の学力調査で全国最下位を続け、県最優先の重要施策は『学力向上対策』でした。全国に先駆けて教育計画や全県運動が始まった理由は、ここにありません。

⇒ 『学力向上対策』こそが、教育振興運動の原点です。学力向上は学校だけの取組ではなく、全県の地域・家庭をあげて取り組むことこそ教育振興運動です。

その「教育基本計画」の中の『父母に期待する事項』という所に教育振興運動が取り上げられているわけですが、運動の中核体として両親と教師の集団である P T A こそが推進の中心となることを期待する、と記されています。

⇒ 教育振興運動を推進する実践区の有無には関係なく、その理念を踏まえて運動を展開することはできます。そもそも、父母と教師による P T A 組織が中心となって展開することが期待されていました。

『学力向上対策』として、「教育基本計画」の策定と「教育振興運動」の立ち上げに携わった 工藤 元知事ですが、講話の中で「教育というものは、筆記試験の点数ではない」と述べています。そのうえで、では点数は低くてよいのか。点数が低くて、その子の能力を伸ばしている・・・と言えるのか、と続けます。

⇒ 点数（学力）だけで、その子を評価するわけではありません。しかし、点数（学力）もその子の能力のひとつであれば、それを伸ばすのは大人の役割、使命です。

いつの時代でも、子どもたちが持っている力を十分に伸ばしてあげることこそが教育の使命であり、岩手に生まれたが故にその子の能力を十分に開発させる

ことができなかつたとしたならば、本当に申し訳ないと思う・・・と結んでいます。
（「教育振興運動 30 年のあゆみ [平成 7 年 3 月発行]」より）

教育振興運動で、『学力向上対策』は取り組みにくい・・・という声をよく耳にします。「学力向上は学校が行うもの」で、地域や家庭は立ち入りにくいということですが、それで 5 者の連携と言えるのでしょうか。5 者が集い、より良い方法を話し合うことこそ、岩手県が全国に先駆けて発信した提案です。

学校も、「まなびフェスト」を設定し、家庭・地域との連携が求められています。家庭・地域も壁を乗り越え、学力向上の取組を学校と一緒に考えて、役割分担をしていきませんか。その話し合いの場の設定や広報活動による啓発こそ、行政の役割といえましょう。

12 月から 2 月にかけて、各市町村においては教育振興運動の集約大会が開催されます。学校においては、PTA 役員会等の総括の会議が開催されると思います。教育振興運動の原点が『学力向上』であることを再確認し、21 年度学習定着度調査における市町村や学校の児童生徒の実態を話題にしていきたいと思えます。

そのうえで、全県共通課題（「家庭学習の充実」と「読書活動の推進」）についての協力体制についての検討をお願いします。

関係資料はこちらです。各市町村の集約大会や PTA の諸会議で活用ください。

検証の流れ⇒<http://www.manabi.pref.iwate.jp/kyoushin/21kensyou.pdf>

県の目標値⇒<http://www.manabi.pref.iwate.jp/kyoushin/21mokuhyou.pdf>

3 【読書推進】 得々！ブックトーク（第 2 回）

「ブックトーク」の第 2 回目は、具体的な流し方について・・・です。

（1）「テーマ」を決めます。

友達、行事、ペットなど・・・のテーマを設定します。先生が行うのであれば、授業の延長としての本の紹介もあると思いますが、読書ボランティアの皆さんは、学習の延長にならないほうがいいと思います。

（2）「ねらい」を考えます。

どうして、そのテーマにしたのか？何を伝えたいのか？ブックトークをする相手をイメージして考えましょう。

（3）テーマに沿った本（予定時間に合わせて 3～5 冊くらい）を選びます。

相手は多数です。何に興味を示すかわかりません。やさしい本から難しい本、絵本・図鑑・写真の本など、いろいろな本を用意することも大切です。

（4）紹介文（シナリオ）をつくります。

どんな順番で、どのように紹介しようか？を文章にしてみます。問いかけ

たり、本の途中を読んだりしながら、興味を引き付けます。ただし、結末は、「読んでのお楽しみ・・・。」とまったくぶりましよう。

(5) いよいよ、本番！ブックトークをしてみましょう。

本を紹介したら、表紙が見えるように立てておけるような準備をしておきます。ブックトークが終わったら、「どうでしたか？」と感想は求めずに、自由に本を手にすることができる時間をつくりましよう。

ブックトークのシナリオを作ってみました。参考にしてください。

例1) テーマ「ねこ」・・・対象；小学校中～高学年

⇒ <http://www.manabi.pref.iwate.jp/kyoushin/booktalk01.pdf>

例2) テーマ「子育て」・・・対象；母親（家庭教育学級・母親学級用）

⇒ <http://www.manabi.pref.iwate.jp/kyoushin/booktalk02.pdf>

様式) さあ、あなたのオリジナル・シナリオをつくってみよう。

⇒ <http://www.manabi.pref.iwate.jp/kyoushin/booktalk00.pdf>

今回は、「ブックトークの種類」についてです。

4【教振は今】教ちゃん、振ちゃん見聞録

(振ちゃん) いよいよ、県内各地で教育振興運動の集約大会が始まったね。

(教ちゃん) そうね。雫石町では、12月5日に開催されたわ。「家読（うちどく）標語コンクールの表彰があったり、実践発表は保護者と児童生徒がおこなったり・・・と、大人だけの集まりではなく、子どもと一緒に成果を確認する会で、とても良かったわ。「チーム教振」からの事例紹介と問題提起もあったしね。

(振ちゃん) ちゃんと、5者がそろっていたんだね。奥州市前沢区でも、12月6日に集約大会があったんだよ。

(教ちゃん) どうだった？

(振ちゃん) うん。どの地区でも「読書活動」を取組に位置づけていて、いい発表だったよ。前沢区教育振興運動推進連絡協議会が、全地区をしっかりとまとめているところが素晴らしいと思ったよ。

(教ちゃん) 雫石町でも、町長さんや教育長さんが「地域コミュニティを元気に！」と呼びかけていたわ。前沢区も協議会の働きかけで、地域の結束が強いよね。

(振ちゃん) そうなんだ。そして、協議会がおこなった「家庭学習の習慣化」の結果が報告されたんだ。地区の子どもたちの現状を見つめ、これからの取組に活かしていく。それこそ、地域課題の掘り起こしだよ。

(教ちゃん) そうね。「今の子どもたちの実態は、こうです。」と問題提起をすることは勇気のいることだと思うけど、それを伝えることで地域全体の意識も高まると思うわ。前沢区を取組は、素晴らしいわね。

(振ちゃん) その結果を踏まえて1月には、これからの取組の話し合いが行われるんだよ。「チーム教振」も参加することになっているんだ。
(教ちゃん) これからの前沢区の展開が楽しみね。

奥州市前沢区において実施された「家庭学習の習慣化」の資料はこちら。

調査用紙⇒ http://www.manabi.pref.iwate.jp/kyoushin/ousyuu_tyousa.pdf

調査集計⇒ http://www.manabi.pref.iwate.jp/kyoushin/ousyuu_syukei.pdf

5 【みんなの声】 ペっこ言い隊

(1) いつもお世話になっております。

PTA 広報等にも転載させていただいておりますが、私のパソコンでも受信できると仕事がしやすいので、そちらにも配信をよろしく願います。
(K 市立〇〇中学校 副校長)

(2) 10号、おめでとうございます！

毎号、楽しみに拝読しています。骨太のいい仕事しているなど感心しております。こっちも、がんばんなきゃ！！(I 市 K さん)

(3) いつも楽しく拝見しております。

前回の編集後記に、テレビで見た地名を地球儀や地図で探してみると良い、と書いてありましたので、それにちなんだ我が家の話をご紹介します。

正しい名称は分かりませんが、県庁所在地の歌があります。それを何回か聞かせるうちに、「神奈川県は？」と聞くと「横浜！」などと答えられるようになりました。

「この調子なら」と、次は地図上のどこなのか、覚えさせることにしました。が、なかなか覚えられないみたいでした。

そこで、何かいい方法はないかと考えてみたところ、子どもと相談してやってみたのがパズルでした。

日本地図のパズル、本屋とか100円ショップでも売ってますよね？ あれです。

例えば、私が九州、子どもが東北で、どっちが早く完成させるか競うんですが、何故かいつも子どもが勝つんですね。

最初は「子どもに負けるはずがないのに」と思ったんですが、子どもは県の数が少ない地域を自分に、多い地域を私にして勝負を挑んでくるんです。「そりゃ負けるよなあ」と、変に感心してしまいました。

遊び感覚で覚える、本当に大事なことですね。(H 町 C さん)

★「ロックンロール県庁所在地」

森高千里バージョンは、埼玉県の県庁所在地が「浦和市」の時のもので、今は使えません。「さいたま市」に改まったバージョンは、ミニモニが歌っており、シングルCDになっています。

★「日本の都道府県パズル」

岩手県立総合教育センターでは、コンピュータで遊ぶ「都道府県パズル」を提供しています。対象は、小学校4年生（社会「わたしたちの県」）です。タイムトライアルは、ドキドキしますよ。

ちなみに、あつしのタイムは、「1分15秒」でした。

⇒ <http://www1.iwate-ed.jp/tantou/joho/material/nippon-map/index.html>

メルマガの感想や日頃思っていることをどんどんお寄せください。

⇒ 21kyoushin@gmail.com

6 【編集後記】あつしのひとりごと

息子の通うH市立N中学校の「校報」より（執筆；校長先生）

・・・(略)・・・

以前、学級担任をしていたころ、保護者の方に「どうすれば成績が上がるようになりますか？」という質問をよく受けました。「まず、掃除をきちんとできるようにすることです。」と私は答えました。・・・(略)・・・

このことは、清掃も学習も、結局は同じ人間がすることなので、共通点があるということを表しています。清掃を怠ける人、出来ない人は、苦しいことや嫌なことから逃げる人です。自分がしなければならないことなのに手を抜いている人です。そういう人は学習からも逃げ、手を抜きます。

反対に、清掃をきちんとする人は、自分がすべきことを当たり前でできる人です。もちろん、人に見られていないからといって手を抜きません。また、どうすればきれいになるかを常に考えながら清掃をするので、工夫する力が身につきます。

そして、実際にきれいにならなければ清掃をしたことにはならないとわかっています。ただ、時間いっぱい働くだけではなく、内容と結果を重視します。さらに、自分なりに重点を決めて取り組みます。これは、先を見通す力です。計画的に行動することにつながります。

これで、学習との共通点が分かったでしょうか。清掃をきちんとする人が、成績が伸びていくのは当然のことなのです。・・・(以下、略)・・・

「校報」の内容は、全校朝会で校長先生が生徒にお話した内容を家庭に伝える

ものでした。早速、息子と「その通りだね。いい話だね。」と話し合いました。取り巻く環境と日常の積み重ねが、その子を育てます。同じ人間がすること、「一事が万事」ということを改めて考えさせられました。

★★★冬休み特大号「特別付録」★★★

「みんなで教振！」通信バックナンバー

- 第1号⇒ <http://www.manabi.pref.iwate.jp/kyoushin/merumaga01.pdf>
- 第2号⇒ <http://www.manabi.pref.iwate.jp/kyoushin/merumaga02.pdf>
- 第3号⇒ <http://www.manabi.pref.iwate.jp/kyoushin/merumaga03.pdf>
- 第4号⇒ <http://www.manabi.pref.iwate.jp/kyoushin/merumaga04.pdf>
- 第5号⇒ <http://www.manabi.pref.iwate.jp/kyoushin/merumaga05.pdf>
- 第6号⇒ <http://www.manabi.pref.iwate.jp/kyoushin/merumaga06.pdf>
- 第7号⇒ <http://www.manabi.pref.iwate.jp/kyoushin/merumaga07.pdf>
- 第8号⇒ <http://www.manabi.pref.iwate.jp/kyoushin/merumaga08.pdf>
- 第9号⇒ <http://www.manabi.pref.iwate.jp/kyoushin/merumaga09.pdf>
- 第10号⇒ <http://www.manabi.pref.iwate.jp/kyoushin/merumaga10.pdf>

⇒ 第12号は、1月12日（火）配信です。

★このメールへの感想、ご意見・ご要望は、こちらまで。

⇒ 21kyoushin@gmail.com

★教育振興運動に関する資料は、こちらまで。

⇒ <http://www.manabi.pref.iwate.jp/kyoushin/index.html>

★生涯学習の役立ち情報なら何でも「まなびネットいわて」まで。

⇒ <http://www.manabi.pref.iwate.jp/>

★子育てに迷ったら、ひとりで悩まず「子育ていわてケータイサイト」に。

⇒ <http://www.manabi.pref.iwate.jp/kt-shien/>

～～～配信元～～～

* 岩手県教育委員会事務局 生涯学習文化課

* 発行人：教育振興運動担当 佐藤敦士（さとう あつし）

転送はご自由です。どんどん転送してください。口コミは、あなたから始まります。「みんなでやろう！」という雰囲気をあなたから作りだしてください。

⇒ 学校新聞の裏面に掲載しての各家庭への配布、回覧板を使っての自治会・子ども会への回覧も大歓迎です！

～～～